様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月１日現在

研究種目：若手研究Ｂ
研究期間：平成２０年度～２２年度
課題番号：２０７３０４１３
研究課題名（和文）　素朴なスピリチュアリティ的信念とそれが健康や人間性におよぼす影響に関する学際的研究
研究課題名（英文）　Simple Spiritual Beliefs and Their Influence on Health and Humanity

研究代表者：具志堅伸隆（GUSHIKEN NOBUTAKA）
東亜大学・人間科学部・准教授

研究者番号：１０４４９９１０

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、一般の人々が抱く「素朴なスピリチュアリティ的信念」の存在について、実証的な検討を行い、その適応的な機能を検証することであった。一般人向けの書物の内容を検討することによって、素朴なスピリチュアリティ的信念を構成する次の 7 種類の概念を特定した。1.「肉体を超越した魂の存在・魂の永続性」、2.「因果応報の原理」、3.「心的イメージの現実化」、4.「神による守護や導き」、5.「天命・宿命」、6.「輪廻」、7.「神の存在」、である。さらに、それらを測定する質問項目を作成し、量的な調査を実施した。その結果、「魂の永続性」、「輪廻」、「神の守護」といった因子の他、「人生が“超自然的な力”によって秩序づけられている」こと、「その力は公正であり、正しいことを行う人間に幸せをもたらす」ことを意味する内容の項目群からなる「摂理」因子が抽出された。重回帰分析の結果、これら４因子のうち、「摂理」因子が精神的健康の指標となる主観的幸福感や自尊感と正の関係にあることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this academic study is to scientifically analyze the existence and the adaptive functions of “simple spiritual beliefs” perceived by the general public. An analysis was conducted using books published for the general public on spirituality. The author identified seven constructs of simple spirituality: 1) “Eternal Existence of Soul beyond Body,” 2) “Karma,” 3) “Realization of Mental Images,” 4) “God’s Protection and Guidance,” 5) “Fate,” 6) “Reincarnation,” and 7) “God’s Existence.” The author created questions that measure these constructs and quantitatively analyzed them. The analysis identified the following factors: “Eternal Soul,” “Reincarnation,” and “Protection by God.” Another factor identified via the analysis was “Providence,” which means that “the supernatural power regulates human lives” and that “the supernatural power is fair and brings happiness to people who do good deeds.” The results of multiple regression analysis indicated that “Providence” was significantly positively correlated with the subjective sense of happiness and self-esteem.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
20 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
21 年度	900,000	270,000	1,170,000
22 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・社会心理学
キーワード：社会的認知・態度・信念・スピリチュアリティ

１．研究開始当初の背景

近年、「スピリチュアリティ（Spirituality）」という言葉が日本社会の中で頻繁に用いられるようになった。それが示す概念は、「『合理だけではとらえられない超自然的な力（スピリット）』をさまざまな形で感知し、それと関わったり、あるいはそれを基礎に人生を生きようとする営み」と定義することができる。日本人は一般的に、宗教に対して警戒や疑念を抱く傾向が強く、無宗教的な文化に生きていると言われる。しかし、その無宗教を自認する人々が、ここぞという時には神頼みをしたり、さまざまな縁起をかついだり、不道徳な行為に対して罰（ばち）が当たるのを怖れたりするなど、「合理ではとらえられない超自然的な力」を認め、怖れ、頼ろうとする姿を社会の随所に見出すことができる。このような人々は、具体的な宗教に帰属するわけではないものの、何らかの形で、スピリチュアルな力の存在を受け入れている（少なくとも拒絶していない）わけである。完全な無信仰・無信心の態度と、個別の宗教を信奉する明確な宗教的態度との間には広いグレーゾーンが広がっており、多くの人々はそこで、宗教色の薄い素朴な信仰心を抱いて生きていると言ってよいかもしれない。

このような素朴な信仰心は、間違った方向へ進めば、人々の合理的な判断能力を著しく歪め、悪質な霊感商法・スピリチュアルビジネスによるマインドコントロールや搾取の被害を生み出したり、危険なカルト集団へと人を走らせる危うさをもっている。宗教に関する教育を受ける機会がほとんどなく、宗教や霊的な概念を社会の中で扱うことに慣れていない多くの日本人にとって、そのリスクは特に大きい。しかしその一方、「この人生をどのように生きるべきなのか？」という、誰もが一度は抱く根元的な不安に対して、ある種の回答を提示することによって、不安を吸収するコーピング機能を、一定程度、果たしていることも事実であろう。社会の先行きが不透明になり、未来に明るい展望を見いだしにくくなっている現在の日本の状況を踏まえると、今後、スピリチュアリティに対する人々の希求と、その影響は増大してゆくと予想される。スピリチュアリティの問題を心理学の視点から研究し、その正しい評価と運用について検討する重要性が高まってきていると言えよう。

スピリチュアリティのテーマは、これまで特に欧米で、宗教心理学のトピックの一つとして研究されてきた。しかし、それらは欧米圏で圧倒的に優勢なキリスト教やユダヤ教の信仰者を対象としているか、少なくともその影響を色濃く受けた内容となっている。スピリチュアリティ的態度を測定する尺度も多く作成されているものの、それらはキリスト教、ユダヤ教の信仰に関わる内容の項目によって構成されており、それらの宗教に馴染みのない日本人にとっては理解しがたい内容となっている。現代日本で浸透している宗教色の薄い素朴な信仰の実態を把握するためには、日本人の無宗教的な態度をふまえた独自の調査を展開する必要があると考えられる。

２．研究の目的

以上のような議論を踏まえ、本研究ではまず、現代の日本人が抱いている素朴なスピリチュアリティ的信念について探索的な検討を行い、その特徴的な概念を特定した上で、それを測定する尺度を開発することを第一の目的とした。さらに、開発した尺度を用いて、スピリチュアリティ的信念と精神的健康、および人間性との関係について実証的な検討を行うことを第二の目的とした。

３．研究の方法

（１）まず、現代の日本人が抱いている素朴なスピリチュアリティ的信念の概念を把握するため、一般人向けに刊行されている書籍の内容分析を行った。検討対象となる書籍は、オンラインストア Amazon. co. jp の書籍検索システムを利用し、以下のような手続きで選定した。まず、2008 年 8 月～2009 年 3 月にかけて、書籍ストアの書籍分類の中から「人生論」、「自己啓発」、「宗教入門」、「超常現象・オカルト」など、スピリチュアリティに関連すると思われる計 37 の小カテゴリーを選抜した。そして、それぞれのカテゴリーにおいて、販売部数順のソートをかけ、そのタイトルや内容紹介を最大 1,000 件まで検討し、次のいずれかの基準に当てはまる書籍を抽出した。(A) 超自然的な現象（少なくともその意味合いが濃厚な）や、法則、能力によって、人生の諸問題に向き合い、解決することについて述べていると思われるもの（例：意識を向ければ、良いことであれ悪いことであれ、それが現実のものとなって現れる）。(B)「スピリチュアリティ」、「神」、「仏」、「霊」、

「輪廻」、「前世・来世」、「祟り・障り」など、宗教的な語句が使われているもの。(C) 宇宙」や「天」などの言葉が、人間と何らかの形で交流する「神」の意味で使われているもの。ただしその際、次のいずれかの基準に当てはまる書籍は、リストから除外した。(a) 「仏教」、「キリスト教」、「イスラム教」、あるいはその他の新興宗教など、既存の具体的な宗教の教典や神話、その教説等について解説した書籍。(b) 宗教について学術的な観点から論じている書籍。このようにして抽出された書籍の中から、購入者の高い評価（評定平均 4.0 以上）を得ているものを中心に、計 300 冊の書籍を選定・収集した。

（２）次に、300 冊の内容を筆者、および研究協力者１名で検討し、その主張を端的に表している記述・主要な箇所を抽出し、頻度の高い概念を特定した。そして、それらに対する信奉度を訊ねる質問項目を作成し、500 名規模の量的調査を 2 回実施した（1 回目は予備調査、2 回目が本調査)。

４．研究成果

（１）書籍の内容分析

300 冊の書籍の内容を分析した結果、次のような 6 種類の概念が頻出することが明らかとなった。①人生の意味（人生で直面する出来事は単なる偶然によって生じるのではなく、何らかの意味や必然性があって生じる)、②輪廻（前世や来世が存在する)、③神の守護（人は神によって守られている)、④因果応報（人の行動は、良いことも悪いことも最終的にはその人に戻ってくる)、⑤魂の永続性（体が死んでも魂は存在し続ける)、⑥心的イメージの現実化（人が心で思ったことは、実際の出来事として現実化する)。

（２）質問紙調査

予備調査：上記の概念に対応する信奉度を訊ねる質問項目を計 32 項目作成し、予備的調査を実施した。得られたデータについて因子分析を行った結果、固有値が 1 を上回る因子が 5 つ抽出された。それらの 5 因子は内容分析で得られたカテゴリー分類の「輪廻」、「人生の意味」、「神の守護」、「因果応報」、「魂の永続性」と対応する内容であった。因子得点を比較したところ、「人生の意味」や「因果応報」の得点は、「前世・来世観」や「魂の永続性」の得点と比べ、有意に高い値を示しており、比較的強く信奉されていることが明らかとなった。また、女性は男性と比べ、どの因子においても強い信奉度を示していた。さらに、各因子は自尊感情と正の相関関係にあることが明らかとなった。

本調査：予備調査において、尺度に用いた文章表現の難しさや、文章の長さ、項目の多さから、回答者に過度の負担がかかるという問題点が指摘された。このため本調査では、各項目の内容を圧縮し、1 項目あたりの文字数を短縮（平均 123 文字から 64 文字へ）するとともに、項目数も削減した（32 項目から 26 項目へ)。得られたデータを分析したところ、固有値が 1 を上回る因子が 4 つ抽出された。第 1 因子は、①人生の意味、④因果応報、⑥心的イメージの現実化に対応する項目群（14 項目）から構成されていた。具体的には、「人生が“超自然的な力”によって秩序づけられている」こと、「その力は公正であり、正しいことを行う人間に幸せをもたらす」ことを意味する内容だと包括できる。そこで、この因子を「摂理（運命を司る秩序)」と命名した。第 2～4 因子は、それぞれ「魂の永続性」、「輪廻」、「神の守護」と対応する項目群であった。「摂理」の平均得点は、他の因子のそれよりも有意に高い値を示しており、比較的信奉度が高かった。また、予備調査と同様に、女性は男性と比べ、どの因子においても強い信奉度を示していた。さらに各因子得点を独立変数とし、主観的幸福感や自尊感情を従属変数とする重回帰分析を行ったところ、主観的幸福感、自尊感情ともに、「摂理」が有意な正の効果を示した。

以上の結果から、現代の日本人が抱いている素朴なスピリチュアリティ的信念を構成する概念が明らかとなり、それらを量的に測定する尺度が完成した。そして、スピリチュアリティ的信念の中でも、「摂理（運命を司る秩序)」に対する信奉が、主観的幸福感や自尊感情といった精神的健康に寄与している可能性が示された。人生が偶然や不条理によって左右されるのではなく、「“公正な超自然的力”によって秩序づけられている」という考え方は、ほぼ全ての宗教に共通する要素である。このような信念を素朴に信じることは、不確実性に満ちた人生を意味づけ、精神的健康に寄与しているのだと考えられる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 5 件［発表予定 1 件］）

① 具志堅伸隆　素朴な信仰心に関する基礎的研究　日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループダイナミックス学会第 56 回大会合同大会　2009 年 10 月 11 日　大阪大学

② 具志堅伸隆　日本人の素朴なスピリチュアリティ的信念に関する心理学的研究　「宗教と社会」学会第 18 回学術大会　2010 年 6 月 5 日　立命館大学

③ 具志堅伸隆・下家義弘　素朴な信仰心に関する基礎的研究 (2)　日本心理学会第 74 回大会　2010 年 9 月 22 日　大阪大学

④ 具志堅伸隆　素朴な信仰心に関する基礎的研究（3）　日本パーソナリティ心理学会第 19 回大会　2010 年 10 月 10 日　慶應義塾大学

⑤ 具志堅伸隆　素朴な信仰心に関する基礎的研究（4）－「(短縮版）スピリチュアリティ的信念尺度」の作成および主観的幸福感との関連性についての検討－　日本心理学会第 75 回大会　2011 年 9 月発表予定）　日本大学

６．研究組織

(1)研究代表者

具志堅 伸隆　(GUSHIKEN NOBUTAKA)

東亜大学・人間科学部・准教授

研究者番号：１０４４９９１０